

2016年11月9日 全3頁

## Indicators Update

# 9月国際収支統計

直接投資収益受取減により黒字幅縮小、特殊要因を除けば堅調な結果

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 齋藤 勉  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2016年9月の国際収支統計によると、経常収支は1兆8,210億円と、27ヶ月連続の黒字となった。季節調整値で見ると、経常収支は1兆4,773億円と30ヶ月連続の黒字となったが、前月（8月：1兆9,757億円）からは黒字幅が4,984億円縮小した。
- 9月には、前月大幅に増加していた直接投資収益の受取が反動で減少したこと、LNGなどのエネルギー価格の反発により輸入価格が上昇したことが経常収支黒字幅の縮小要因となった。一方、米国向け自動車や自動車部品輸出が増加していることなどを踏まえると、特殊要因やエネルギー価格の影響を除けば、9月の経常収支は概ね横ばい圏、あるいは若干黒字幅拡大方向に推移していたものと評価出来よう。
- 先行きの経常収支は、緩やかな黒字幅拡大を見込んでいる。足下で輸出数量に底入れの兆しが見られていることにより、輸出金額は緩やかな拡大基調が続くとみている。原油価格は振れを伴いながら現状程度の水準で推移するとみており、輸入金額への影響も限定的なものにとどまるだろう。貿易収支の黒字幅は緩やかながら拡大を続けると見込んでいる。一方、旅行収支の黒字幅は緩やかに縮小基調にあり、サービス収支の赤字幅が大幅に縮小するという事は考えにくい。また、第一次所得収支の黒字幅は緩やかな縮小傾向が続いていたが、為替レートの変動が落ち着けば、所得収支は横ばい圏の動きに転じる公算が大きい。貿易収支黒字幅拡大が経常収支黒字幅の拡大要因となると見込んでいるものの、拡大ペースは極めて緩やかなものになる見込みである。

図表1：国際収支統計の概況（原系列）

(億円)	2016年9月	2015年9月	前年同月差
経常収支	18,210	14,521	+ 3,688
貿易・サービス収支	5,307	91	+ 5,216
貿易収支	6,424	684	+ 5,740
輸出	58,386	63,705	▲ 5,319
輸入	51,962	63,021	▲ 11,059
サービス収支	▲ 1,118	▲ 593	▲ 525
第一次所得収支	15,066	16,811	▲ 1,745
第二次所得収支	▲ 2,163	▲ 2,381	+ 218

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

## 直接投資収益の受取減少により経常収支は黒字幅縮小、特殊要因を除けば堅調な結果

2016年9月の国際収支統計によると、経常収支は1兆8,210億円と、27ヶ月連続の黒字となった。季節調整値で見ると、経常収支は1兆4,773億円と30ヶ月連続の黒字となったが、前月(8月:1兆9,757億円)からは黒字幅が4,984億円縮小した。

9月には、前月大幅に増加していた直接投資収益の受取が反動で減少したこと、LNGなどのエネルギー価格の反発により輸入価格が上昇したことが経常収支黒字幅の縮小要因となった。一方、米国向け自動車や自動車部品輸出が増加していることなどを踏まえると、特殊要因やエネルギー価格の影響を除けば、9月の経常収支は概ね横ばい圏、あるいは若干黒字幅拡大方向に推移していたものと評価出来よう。

## 貿易収支～輸入価格上昇で貿易収支黒字幅縮小、「仲介貿易商品」も黒字幅縮小要因に

貿易収支は6,424億円の黒字となり、前年同月(684億円の黒字)から黒字幅が5,740億円拡大した。季節調整値で見ると、5,026億円の黒字となり、前月(8月:6,625億円の黒字)から黒字幅が1,599億円縮小した。9月には、米国向け自動車輸出や自動車部品輸出の反発により輸出数量が増加したものの、LNGなどのエネルギー輸入価格の上昇により、貿易収支黒字幅は縮小した。また、貿易統計では計上されず、国際収支統計のみで計上される「仲介貿易商品」の金額が前月から減少したことも、国際収支統計上の貿易収支の押し下げ要因となった。

## サービス収支～旅行収支受取額は増加したものの、知的財産権使用料や金融サービスが下押し

サービス収支は▲1,118億円の赤字となり、前年同月(▲593億円の赤字)から赤字幅が525億円拡大した。季節調整値で見ると、▲1,549億円の赤字となり、前月(8月:▲1,262億円の赤字)から赤字幅が287億円拡大した。旅行収支(季節調整値)は、1,133億円の黒字と、前月(8月:924億円の黒字)から黒字幅が拡大したものの、産業財産権等使用料の受取減少や著作権等使用料の支払い増加がサービス収支の下押し要因となった。このところ拡大基調にあった金融サービスの受取が9月には減速したことも、サービス収支赤字幅拡大に寄与したもようである。

## 第一次所得収支～前月増加していた直接投資収益受取が減少、円高に伴う縮小基調が続く

第一次所得収支は1兆5,066億円の黒字となり、前年同月(1兆6,811億円の黒字)から黒字幅が1,745億円縮小した。季節調整値で見ると、1兆3,792億円の黒字となり、前月(8月:1兆6,505億円の黒字)から黒字幅が2,713億円縮小した。円高基調を受けて第一次所得収支黒字幅は縮小傾向が続いていることに加え、前月の特殊要因が剥落したことで、9月の第一次所得収支黒字幅は大きく縮小することとなった。

図表2：国際収支統計の概況(季節調整値)

(億円)	2015				2016								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
経常収支	9,493	16,050	15,498	16,458	14,361	16,361	19,007	15,881	13,915	16,569	14,478	19,757	14,773
貿易収支	▲1,593	719	1,738	1,103	2,184	2,453	4,318	3,996	3,355	4,638	3,616	6,625	5,026
輸出	62,479	62,362	63,363	60,698	58,888	56,124	55,370	54,745	55,061	56,066	54,563	56,761	56,172
輸入	64,072	61,643	61,625	59,595	56,704	53,671	51,052	50,750	51,706	51,428	50,947	50,137	51,146
サービス収支	▲998	▲1,399	▲494	▲1,427	▲432	375	▲668	▲393	▲1,313	▲2,087	▲1,074	▲1,262	▲1,549
旅行収支	978	1,004	1,087	1,207	1,396	1,396	1,255	728	813	1,029	1,087	924	1,133
第一次所得収支	14,973	18,402	16,373	17,889	14,266	16,047	16,497	13,936	14,037	15,249	13,781	16,505	13,792
第二次所得収支	▲2,889	▲1,671	▲2,120	▲1,106	▲1,656	▲2,514	▲1,140	▲1,658	▲2,164	▲1,231	▲1,844	▲2,110	▲2,496

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

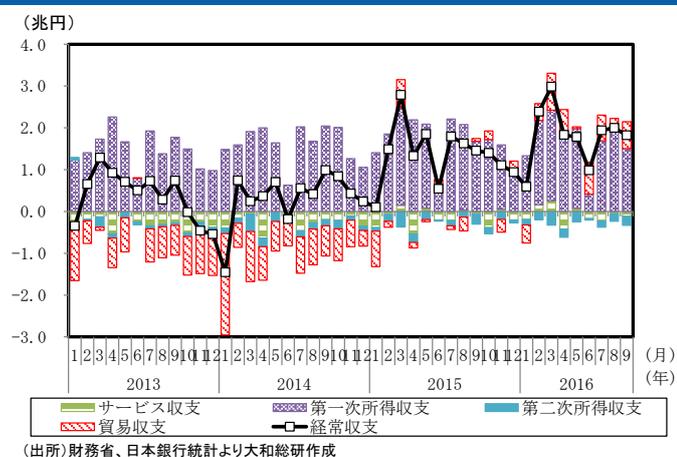
## 先行き～輸出数量底入れにより、経常収支黒字幅は緩やかな拡大を見込む

先行きの経常収支は、緩やかな黒字幅拡大を見込んでいる。足下で輸出数量に底入れの兆しが見られていることにより、輸出金額は緩やかな拡大基調が続くとみている。一時的に1バレル50ドルを越す水準まで上昇した原油価格も足下では45ドル程度まで低下している。今後も原油価格は振れを伴いながら同程度の水準で推移するとみており、輸入金額への影響も限定的なものにとどまるだろう。貿易収支の黒字幅は緩やかながら拡大を続けると見込んでいる。

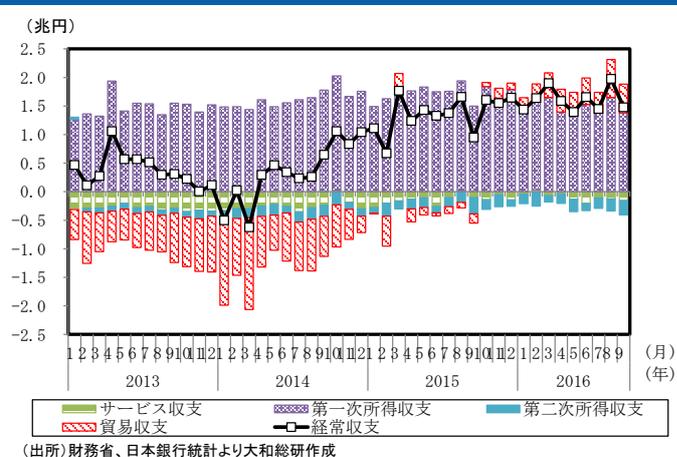
一方、旅行収支の黒字幅は緩やかに縮小基調にあるほか、産業財産権等使用料の受取金額も低調に推移しているなど、サービス収支の赤字幅が大幅に縮小するということは考えにくい。また、これまでの国際的な金利低下や円高を受けて第一次所得収支の黒字幅は緩やかな縮小傾向が続いているが、為替レートの変動が落ち着けば、所得収支は横ばい圏の動きに転じる公算が大きい。貿易収支黒字幅拡大が経常収支黒字幅の拡大要因となると見込んでいるものの、拡大ペースは極めて緩やかなものになる見込みである。

また、為替がさらに円高方向へ推移することがあれば、所得収支の受取金額減少により、経常収支の黒字幅は縮小に向かうとみられる。足下では、欧州の金融不安や米国の金融政策動向により、為替の変動が大きい状況が続いている。経常収支の先行きを見る上では、為替の動向に引き続き注意が必要であろう。

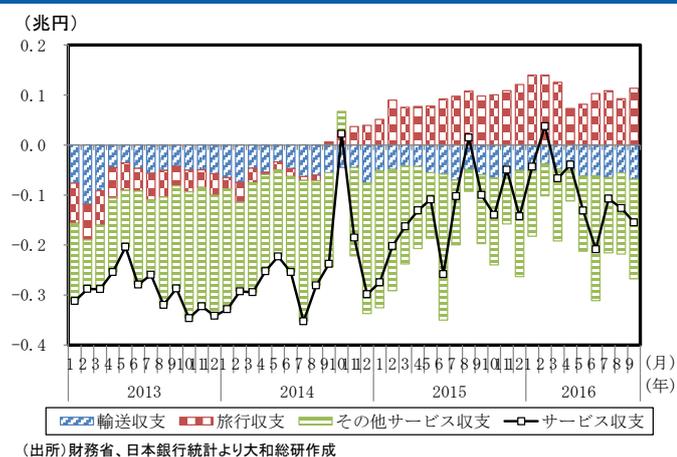
図表3：経常収支の推移（原系列）



図表4：経常収支の推移（季節調整値）



図表5：サービス収支の推移（季節調整値）



図表6：第一次所得収支の推移（季節調整値）

